

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300700		
法人名	医療法人 謙昌会		
事業所名	グループホームあんずの家 (ユニット2)		
所在地	〒031-0813 青森県八戸市大字新井田字外久保3-11		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 (ユニット2)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフが日々、理念を念頭におき、業務に携わることが出来るよう、施設内に理念を掲示している。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の方々に施設の避難訓練に参加していただいたり、交流会等で親睦を深め、良好な関係作りに努めていたが、コロナ禍にて現在は交流が難しい状況である。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談所として相談に応じたり、高齢者支援センターの見守り活動に参加するなど地域に貢献している。小学生、中学生の職業体験も受け入れていたが、現在はコロナ禍のため控えている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や、地域の方々にホームの近況やオンブズマン訪問報告、満足度調査の結果等を報告し助言や意見を頂いている。現在はコロナ禍のため書面会議を行い、意見をサービス向上のために活かしている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告やメール、電話等で近況報告や情報交換を行っている他、必要に応じて報告・連絡・相談をしながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという方針の下、身体拘束排除のマニュアルを整備し、職員全員の共通理解を図り、工夫しながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアから虐待に繋がらないよう、定期的に勉強会を行い、高齢者虐待防止法について理解を深めている。職員同士が声を掛け合い、日々のケアを振り返り、虐待防止に努めている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を開催し、学ぶ機会を設けている。現在は制度の活用が必要な方はいないが、必要時には活用できるよう理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定等の際は、重要事項説明書に基づき、丁寧に説明を行ない、不安や疑問点を尋ね、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を自由に投函して頂けるよう、玄関にご意見箱を設置している。又、毎月のオンブズマン訪問で入居者の皆様が不満や要望を伝えられるよう機会を設ける他、運営推進会議での意見や提案等も検討し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、職員の意見を聞き、法人と相談しながら運営に反映させている。日頃から、職員一人一人の意見や提案を聞く体制が出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に業務能力評価を行い、個人の能力や実績を把握し、給与、賞与に反映させている。又、研修への参加や、資格取得へのサポートを行い、スキルアップの機会を提供している。職員個々の事情に考慮した勤務体制を整え、業務改善を行いながら働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務能力評価で職員一人一人の力量を把握し、全職員が法人内の研修やe-ランニングシステムを活用した研修を受けることが出来るようにしている。又、ホーム内でも定期的に勉強会を開催し、職員の理解を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の一員として、研修会や総会に参加し、他事業所の方々と交流を持ち、情報交換を行いながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人の要望やニーズを把握し、安心して生活できるよう支援している。毎日の挨拶やコミュニケーションを密にし、信頼関係の構築に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、ご家族の要望やニーズを理解し、出来る限り要望に沿えるよう努めている。入居後は、本人の体調変化や毎日の様子を伝え、情報交換や相談をしながら良好な関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が必要としているサービスを見極め、状況に応じた支援やサービスの提供が出来るよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されるだけでなく、生活の場として家事にも参加し、一緒に行うことで、共に暮らす同士助け合える関係を築けるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ本人の体調や様子を報告し、相談しながら、本人とご家族にとって良い方向性を考え、協力して頂いている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのある場所や仲間等の把握をし、機会を設け話をしたり、居室に写真を飾り、思い出していただけるよう努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の個性を把握し、支え合い、会話が弾むような席の配置にしたり、職員が仲介しながら良好な関係が築けるよう努めている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて情報提供や相談にのる等、本人やご家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族から暮らし方の希望を伺い、日常生活の様子やコミュニケーションをとる中から新たなニーズの把握に努めている。意思疎通が困難な方の場合はその方の立場で考え検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、ご家族、関係機関から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の情報を提供して頂き、把握するとともに、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や心身の状態、認知症の症状、有する力等を生活記録に残すとともに、定期的に身体機能、認知機能を評価し、一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を基に、介護職員、リハビリスタッフ、看護職員、医師等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や変化、ケアの内容や気づきを生活記録に残し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、ニーズに対応し、同法人の医療機関やデイサービス等の協力を得ながら柔軟に対応している。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍のため、地域の祭りや外出行事は控えているが、施設内での行事を行い楽しんでいただいたり、感染対策をして訪問理容を活用する等、豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族等の希望する医療機関を受診して頂き、かかりつけ医やご家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日状態の観察をし、いつもと違う様子が見られた時は、看護職員に報告、相談し早めの受診に繋げている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は医療機関に必要な情報を提供し、入院中も定期的に情報交換を行いながら、早期に退院できるよう取り組んでいる。又、日頃から医療関係者と情報交換を行い、関係作りを行っている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応についてホームの指針を伝え、ホームで出来ないことの説明をし、本人やご家族の意向を確認している。入居者の健康状態や変化をご家族や主治医に報告し、相談しながら、その都度意向を確認し対応している。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の事故や急変に備え、マニュアルを整備し、定期的に研修を開催し、実践に活かせるようにしている。又、協力病院やかかりつけ医と、いつでも相談できる体制が整っている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼夜を問わず安全に避難出来るようにしている。又、緊急連絡網を作成し、地域の方の協力が得られる体制が整っている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時、プライバシーを確保し、その人の性格やその日の体調、表情等をくみとり、声掛けや対応をしている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係を作り、本人が思いや希望を話しやすい雰囲気作りをしている。本人が決められない時には職員がアドバイスし、本人の意思を引き出せるようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、体操等、一日の流れはあるが、個々の体調や気分に合わせて、自由に過ごしていただいている。本人のペースで楽しく活動的に過ごせるよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は、馴染みの美容院へ出かける方もいたが、現在はコロナ禍のため外出を控えており、訪問理容を活用している。衣類は季節ごとに衣替えをし、普段は本人の好みを聞き、一緒に選ぶ等、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の食材を取り入れ、彩りや盛り付けにも気を配り提供している。現在は感染対策のため食事の準備は職員が行っているが、食後のおぼん拭きやテーブル拭き等を手伝って頂き、有する能力を発揮出来るよう支援している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や疾患に合わせた味付けや食事形態にしており、必要に応じて介助をしながら、栄養や水分が必要量摂取出来るようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来るだけ自力で歯磨きをして頂き、職員が仕上げ磨きをしている。義歯を使用している方は夕食後、洗浄剤に浸けて清潔保持に努めている。定期的な歯科衛生士の訪問で正しい口腔ケアの手技を学び、口腔トラブルを予防している。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェック表から、個々のパターンを把握し、本人のサインを見逃さないようにし、トイレへ誘導している。使用するオムツも本人の動作レベルに合わせたものを使用し、失敗の減少、排泄の自立を目指している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、積極的な水分補給と適度な運動を勧め、食物繊維の多い食材、乳製品等を取り入れた食事を提供している。又、便秘傾向の方には腹部マッサージを行う等、便秘予防、改善に努めている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回を目安に入浴して頂いているが、その日の体調や気分、外出予定に合わせて、本人と相談し、時間の調整や日時の変更を行っている。入浴時は会話を楽しみながらゆっくり入浴してもらえるように努めている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の習慣や体調、生活リズム等に配慮しながら、本人の意思を確認し、自室やホールソファなどで休んで頂いている。就寝前は温かい飲み物をすすめたり、自室の温度調整をし、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や、薬の情報用紙をいつでも確認できるように保管している。確実に服薬していただくため職員二人で声に出してチェックし、確認するとともに、症状の変化に注意し、変化が見られた時は随時主治医に報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おぼん拭きや洗濯物たたみ等、個々の力を活かした家事に参加して頂き、感謝の意を伝えることで、喜びや達成感を感じていただけるようにしている。又、季節の歌を歌ったり、体操や行事等で楽しむ機会を提供している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は買い物や美容院等へ自由に外出出来るよう支援していたが、現在コロナ禍のため、外出は控えている。ご家族や地域の方々との面会もガラス越しに短時間と制限しており、外出は病院受診のみとなっている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は買い物に出かけ、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、支払ったりする機会を作っていたが、現在はコロナ禍のため、外出を控えており、お金の所持や使うことの支援は出来ていない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、本人が直接電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。又、行事の写真や本人の作品をご家族へ贈り、絆が途切れないようにしている。入居者の中にはご家族との電話が日課になっている方もいる。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度、湿度は、毎日定期的にチェックし、快適に過ごせるように調整している。季節の花や行事の写真、壁飾り等で季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、一人で寛ぐことが出来る空間を作っている。現在はコロナ対策としてパーテーションやアクリル板の活用、一人用のテーブルを使用する等、入居者同士の対面を避けるようにしている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具や愛用品を持参して頂き、安心して過ごせるよう配置を工夫している。又、居室の雰囲気作りとして、写真や手作りの作品などを飾っている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、トイレや居室に分かりやすい目印や名前を表示している。又、廊下やトイレに手摺りを設置し、動線上の環境整備を行い、安全に、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		